

様式第2（第9条関係）

# 政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和7年 11月12日

犬 山 市 議 会

議 長 大澤 秀教 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、研修の成果を報告いたします。

|           |                           |
|-----------|---------------------------|
| (1) 年 月 日 | 令和7年 11月 9日(日)            |
| (2) 場 所   | 郡上市 郡上市総合文化センター           |
| (3) 形 態   | 会派 ( ) : その他 ( 鈴木のみ )     |
| (4) 内 容   | 研修「出張財政出前講座」<br><br>報告書別紙 |
| (5) 成果・提言 | 報告書別紙                     |



出張報告書 令和7年11月9日(日)

研修「出張財政出前講座」

郡上市 郡上市総合文化センター

昨年度、早稲田大学で受講した、前福岡市財政課長今村氏の講座を再受講した。  
昨年12月に福岡市役所を退職され、現在は全国で「出張財政出前講座」を開講しているらしい。昨年度は講義だけだったが、今回は講義に加え「財政シュミレーションゲーム」という、当初予算策定時の議論もメニューに加わっていた。  
参加者約30名、岐阜県、愛知県の首長、議員、自治体職員、一般住民とバラエティ豊かな顔ぶれだった。

前半は講義、講義では、前回同様、事業の取捨選択は、スクラップ&ビルドではなくビルド&スクラップが基本だと学んだ。前回は職員向け講座のイメージだったが、今回は議員の参加者が多いためか、内容もそれなりだった。

- ・自治体財政、借金残高の多さが問題ではない。ただ、長期にわたり返済する責任はあるので、自由度が少なくなる。
- ・各自治体、財源が先細りし、自由に使える一般財源は厳しいように感じるが、仮に財源が不足したとしても交付税で穴埋めされるのでほとんど変わらない。
- ・財源確保のために人件費を削ってはいけない。
- ・第四の義務的経費として、公共施設の維持管理費は念頭に入れておく必要あり。

後半は、6人ずつのグループに分かれてシュミレーションゲーム。  
それぞれが仮想F市の局長役となり、新年度予算策定にあたり、【新規事業を実施するには同額の既存事業を廃止する必要がある、では何を切るか？】を各局長間で議論、全員一致して進めていく内容。最後に、議案を議会を通すため、他班メンバーが議員役となり、質疑・採決まで行った。

既存事業を削るには、そのサービスを享受している市民が少なからず存在し、その市民の顔が頭に浮かんでくる気がした。自治体独特ではあるが、やはり事業を廃止するのは厳しさを伴うことを理解した。職員は大変な思いで予算を作っていることを理解した。

全国の自治体それぞれに目指すビジョンがあり、そのビジョンが明確でないと、何を切って何を残すかが明確にならないことが判った。市長のマニフェスト、市民(議員)からの要望、それらを俯瞰的にみってから政策策定しないと、10年、20年の長期スパンでその自治体がどちらに向かっているのか解らない予算になりかねない。そのあたり、とても大切だと実感した。

未来、この町がどうなっているのか？どちらに向かっているのかを考えてからスター

トすることが必要。

どれも、議論、情報共有、部局の立場を超えてみんなで考え、意見一致していかないと議会を乗り越えられないことが判った。意見一致は共感、協働、事業の良し悪しを数字で判断しにくい自治体の業務には特に大切だと体感した。

#### ○犬山市への提言

人材確保のための予算を削ってはいけない

犬山市のビジョンを明確に理解し、市民（議会）で情報共有することが大切。

ビジョンは正しいか？ 総合計画や都市計画マスタープランは市民に理解されている

か？そのような視点で、議員⇄市民の意見交換、意見聴取が大切。

以上